

保護者との連絡



なぜ書くのか？【目的】

目的を意識
しながら書く

『記録』がもつ主な機能

① 記録を残すことの機能

- ・ サービス提供の実施記録（行政への報告）
- ・ サービス提供の情報共有（保護者・関係者・機関との連携）
- ・ サービス提供の証拠（リスク管理）
 - ・・・事故 けが 防災 衛生 人権

② 記録を書くことの機能

- ・ 利用児へのサービス提供の質の向上（対症療法から事前手立てへ）
- ・ 保護者との信頼関係の深まり・支援のエビデンスの蓄積

なにを書くのか？【内容】

【個別支援計画の意識のもとに書く】

『その子の生活のしやすさが向上すること』

→「5領域」をベースに子どもを『みる』

子どもを『みる』視点

・行動の

【内容】

【量】

【質】（ex.頻度 反応時間

の『変化』

個別支援計画を 意識して書く

『みる』領域・カテゴリ

「健康・生活」
心身の健康や生活に関する領域

「運動・感覚」
運動や感覚に関する領域
「認知・行動」
認知と行動に関する領域

「言語・コミュニケーション」
言語・コミュニケーションの獲得に関する領域

「人間関係・社会性」
人との関わりに関する領域

どう書くのか？【方法】

なぜ？を
重視して書く

① 分類項目を特定する

なぜ それを記録に残そうと思うのかを問う
(その記録のもつ意味や必要性)

② インデックスを記述する（40文字程度）

インデックスを読めば、第三者が読んだ
としてもわかるように書く

- ・ なんについての記録が書かれているのか？
- ・ なぜその記録が残されているのか？

③ 詳細欄に正確な事実を記述する

【留意したいポイント】

- ・ 個別支援計画との整合性をみる
- ・ 事実と推測を区別する
- ・ 5W1Hを意識する
- ・ 支援者側が働きかけたことを記録する
- ・ 人権に配慮した文章にする（敬体必要なし）
- ・ 開示を求められた場合を意識して書く
- ・ その子の成長に寄与する意識を常にもつ

実際に書いてみましょう！

私たちの支援とは



望ましい行動を身に付けさせる

ステップ①

① 行動問題の発生
を回避する支援力

状況と時期の
適切な見立て



ステップ②

② 望ましい行動を
身に付けさせる

支援を考える2つの理論

A (状況)



B (行動)



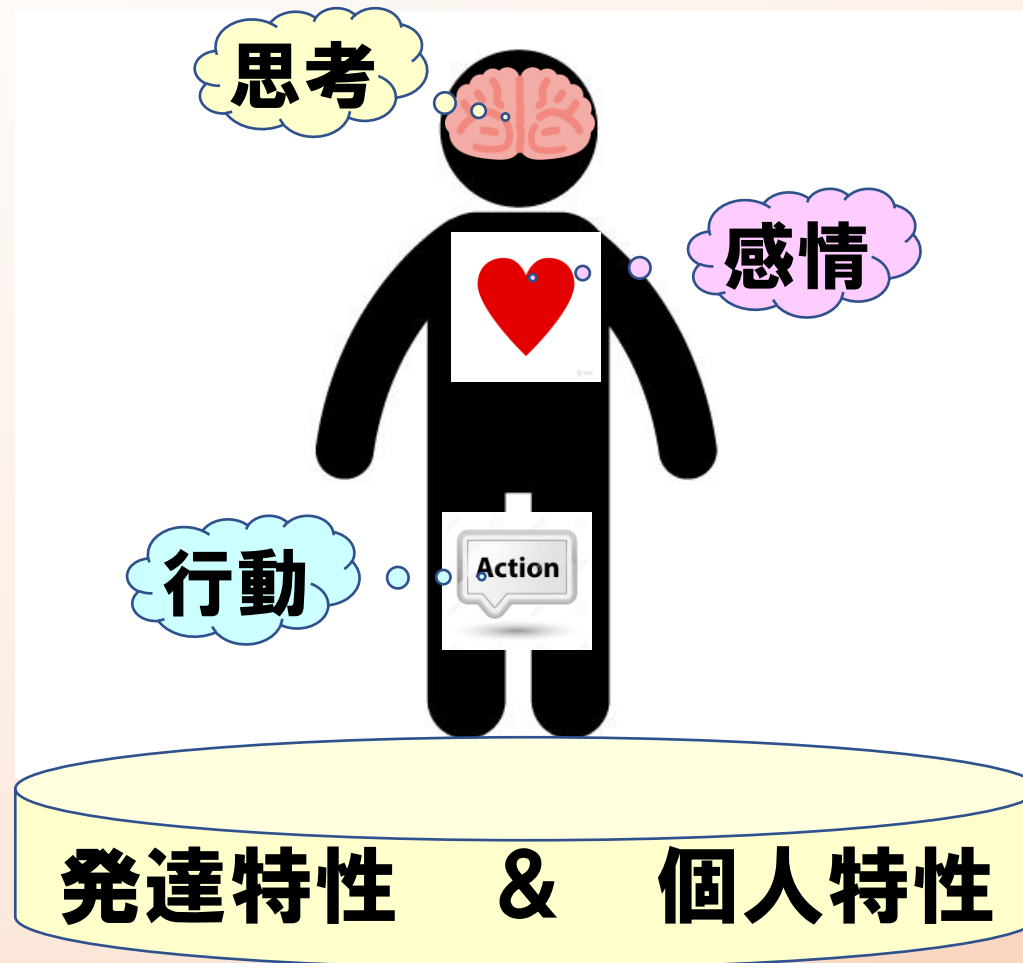
C (結果)

きっかけ
行動の目的
行動の機能

外的刺激

TEACCH

もの・ひと・こと



要求達成
心理的安定
心理的満足

内的刺激

ABA

強化子・意味づけ

“ABC分析 → 支援” の考え方

A (状況)

店でほしいものをみつける

B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ

C (結果)

ほしいものが
手に入る

【3つのポイント】

レベルⅠ 『A』の状況を変える

レベルⅡ 『C』の結果を変える

レベルⅢ 『B』の行動を変える

① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

不適切行動を減らすために

不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）

【不適切行動が強化され

ている状態を断ち切る】

方法① 刺激の撤去

方法② 消去手続き（計画的無視）

方法③ 嫌悪刺激の呈示（罰）

方法④ 分化強化手続き

ア 低頻度分化強化 : 不適切行動の回数や時間が基準以下の場合に強化する

イ 他行動分化強化 : 不適切行動が起きていない場合を強化する

ウ 対立行動分化強化 : 同時に実行できない代替りの行動を強化

エ 代替行動分化強化 : 不適切行動に置き換わる代替りの行動を強化

段階 : 【指示】 → 【再度指示】 → 【警告】 → 【罰】 ※ 事前合意

TEACCH理論：世界を「翻訳」する設計図

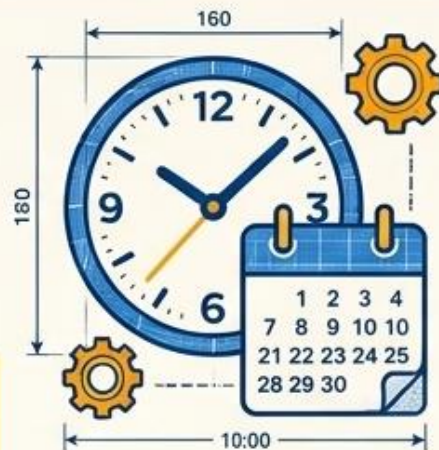
物理的構造化

環境の整理
(空間の意味を明確に)



時間の構造化

予定の視覚化
(いつ始まり、いつ終わるか)



活動の構造化

手順の提示
(何をどうすればよいか)



視覚的支援

絵カード・リスト
(言葉より目で見える情報)

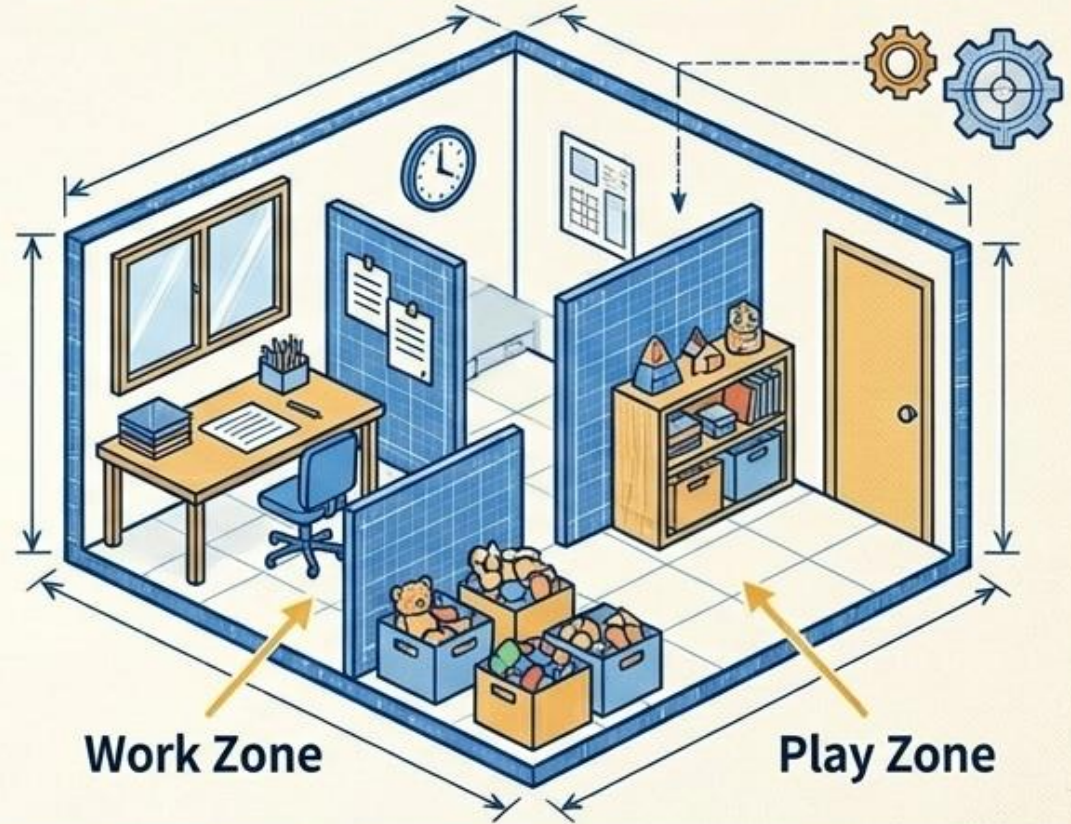


物理的構造化：空間の意味を明確にする

未調整の環境（混乱と不安）



物理的に構造化された環境（集中と安心）

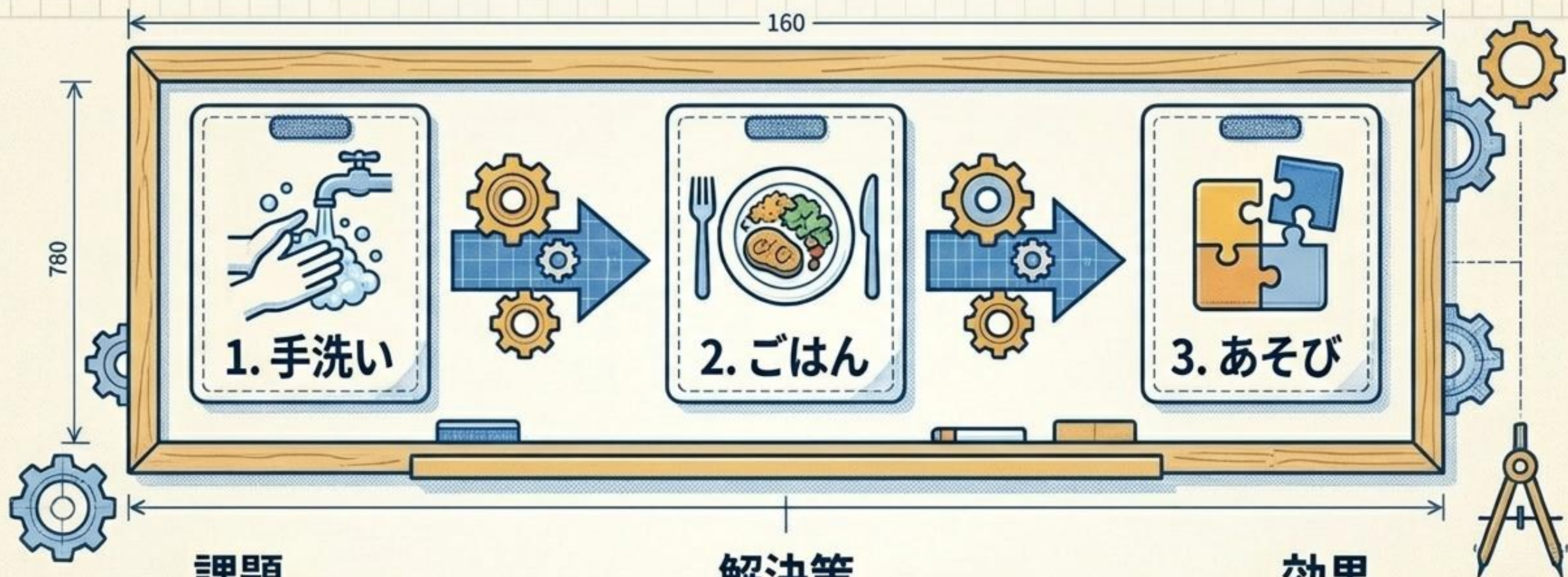


目的：ASD児童が理解しやすい環境を作る

方法：活動エリアをパーテーションや家具で区切る

効果：視覚的な刺激（ノイズ）を減らし、集中と安心を生む

時間の構造化：未来を予測可能にする



課題

「次何が起こるか分からない」状態は極度のパニックを引き起こす。

解決策

1日のスケジュールを視覚的なルーチンで提示。

効果

予定変更の際も、言葉ではなくスケジュール表を書き換えることで納得しやすくなる。

活動の構造化と視覚的支援：自立を促す

消えてしまう聴覚情報（混乱）



空間に留まる視覚情報（自立）

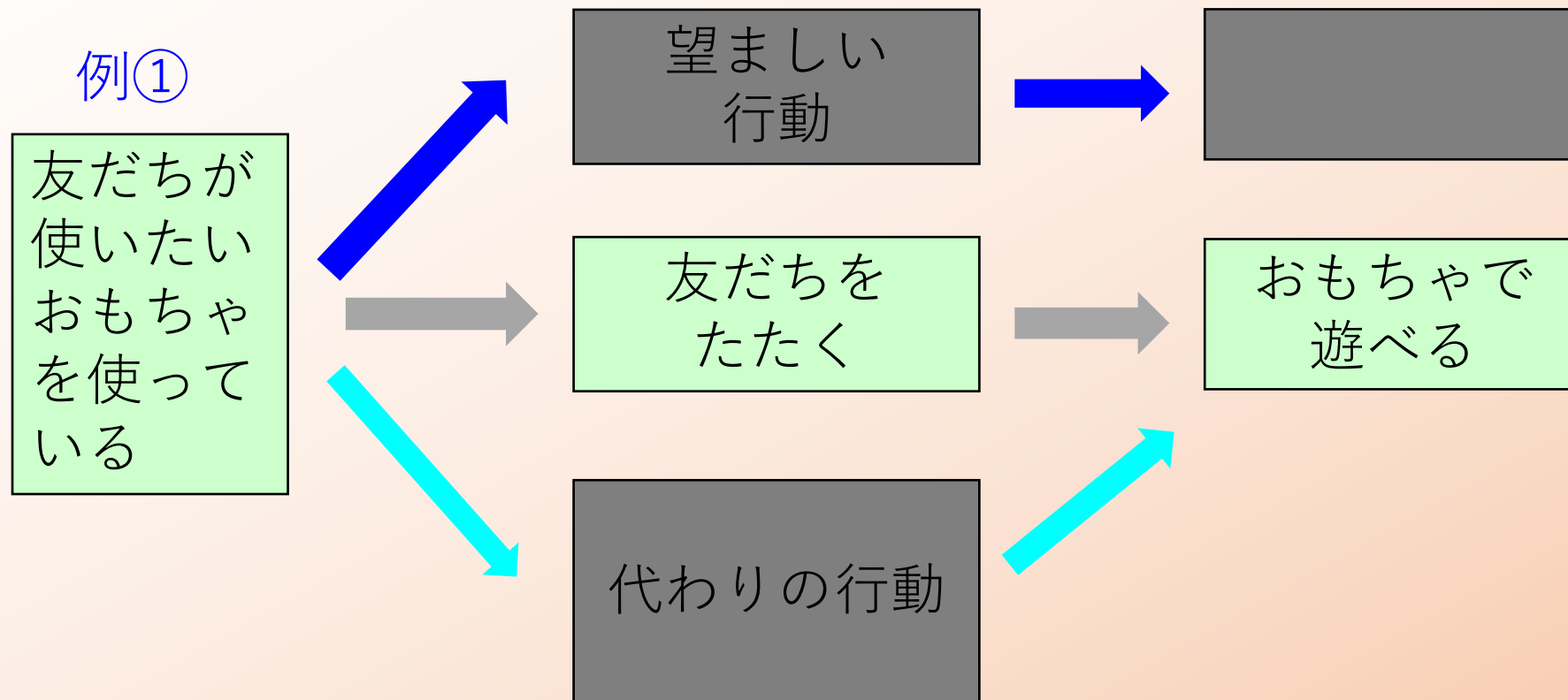


手順の提示（始まりと終わり）を明確にし、
支援者に依存せず自ら行動できる仕組みを作る。

B : 行動を変える (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



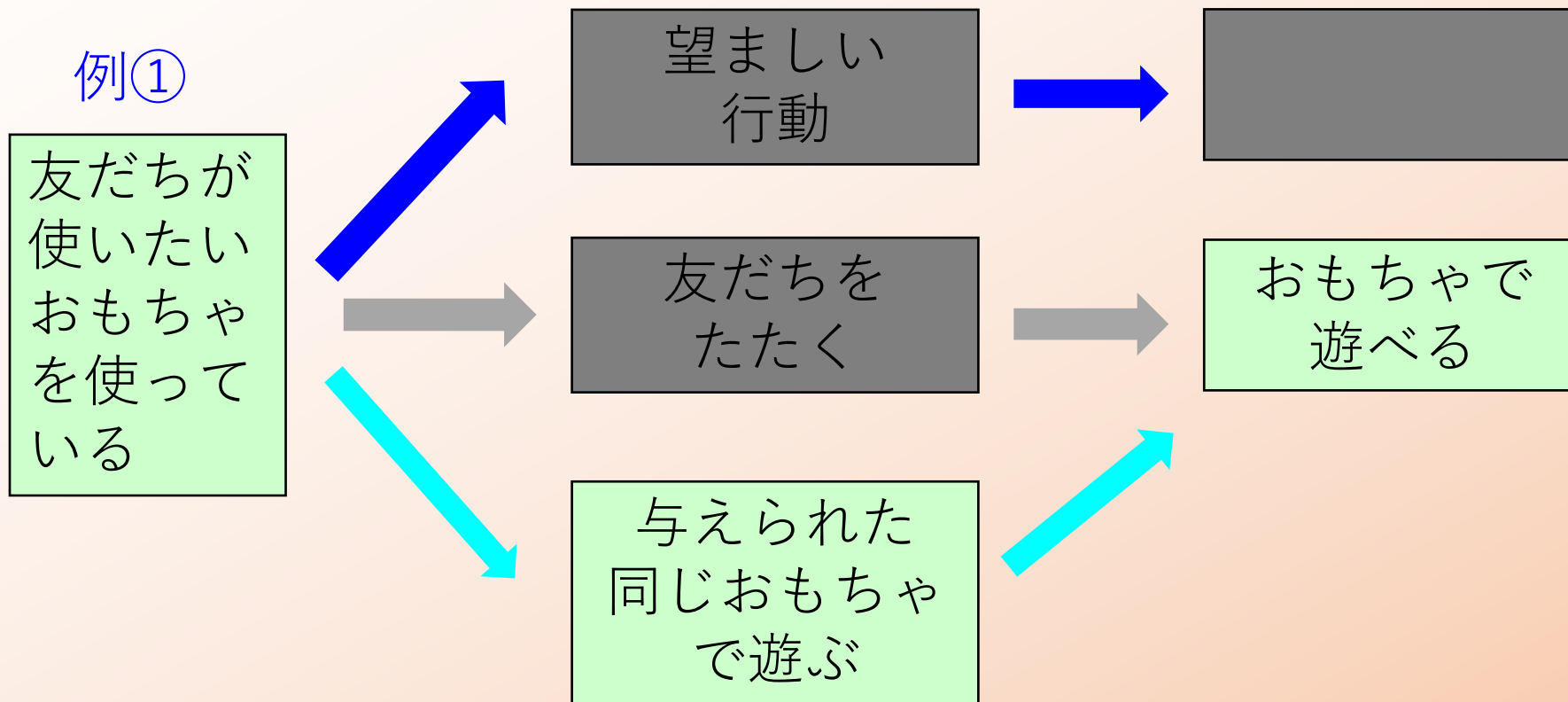
※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力 & 支援力養成ガイド

B : 行動を変える (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



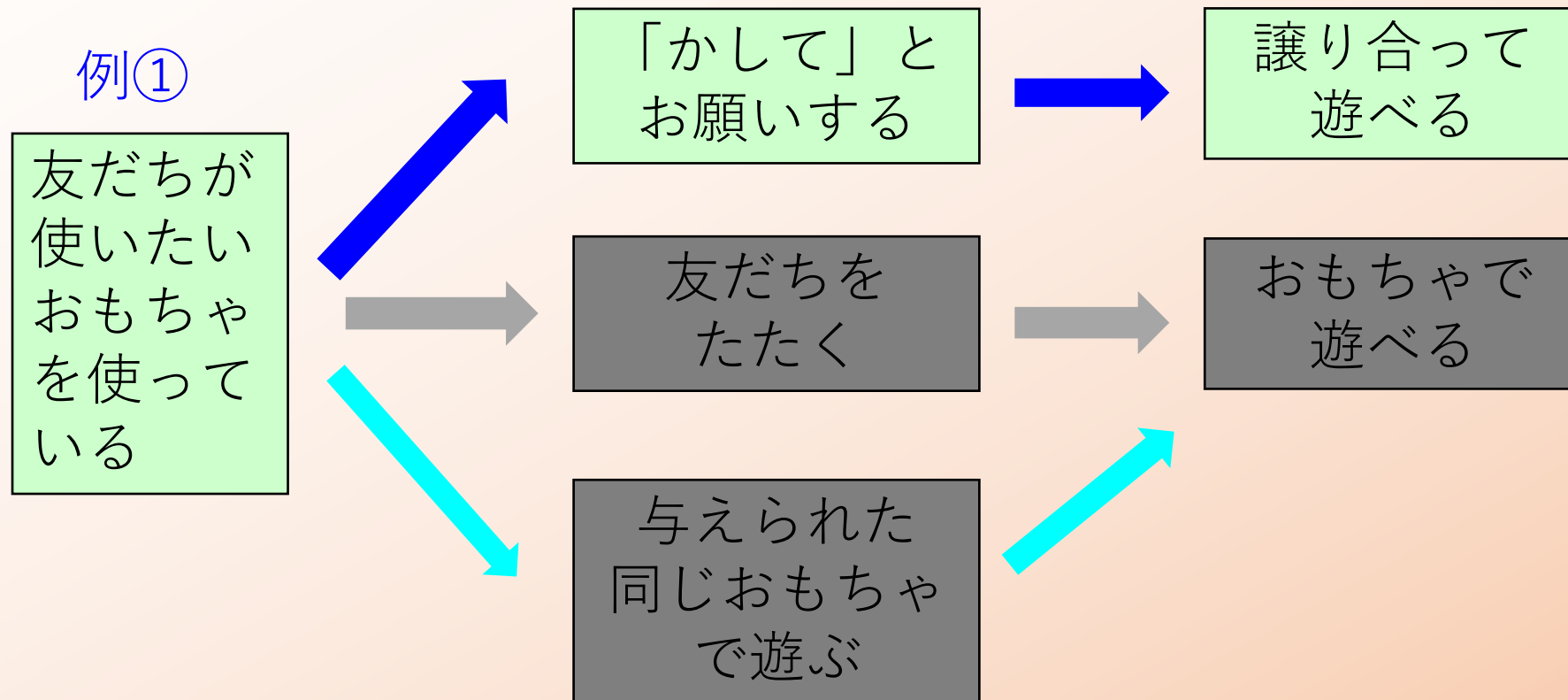
※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力 & 支援力養成ガイド

B：行動を変える（望ましい行動の獲得）

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力＆支援力養成ガイド

【状況】高等部 1 年生のB君は、**「教室の掃除用具ロッカーに入り込む」**という不適切な行動が多い生徒でした。その行動は、何もすることがない暇な状況で特によく起こすようでした。ロッカーに入り込むと、何かブツブツ言っていたり鼻歌を歌っていることが多いのです。

そこでまず取り組んだことは、これまで好き勝手に入り込める状況だったのを、

① **「きゅうけい」カードを担任に渡さないと入れないルールを徹底**（カードを渡せば入ることを許可される）

次にこのルールが定着したことを見定めてから、

② **一日に使えるカードの枚数を徐々に減らしていった。**

最初は10枚使えたのを、**2週間かけて5枚にまで減らしていった。**

それに伴い順調にその制限枚数に収まるように入り込む回数と総時間数が減っていきました。

さらに暇な時間をできるだけ減らすために、

③ **iPadでYouTubeの動画を見ることに誘導**

B君は昔懐かしい「東京フレンドパーク」を見ることがお気に入りなのですが、

iPadを手の届かない棚の中にしまっておく

とそこを指差して、「フレンドパーク！」と一語文で要求するようになりました。

そこでさらに欲張って、

「フレンドパーク、見せてください」という二語文で言うように教えていった

ところ、それも定着しました。

そうこうしているうちに、今ではロッカーに入り込むことは全くなくなりました。

「自然観察」 △ → 「仮説検証観察」 ○

自然観察

仮説検証観察

やってみよう



【本日の様子】

今日は集団活動でみんなで工作をしました。

A君はハサミを使うのが難しかったようで、途中でイライラしてハサミを投げ、お友達のB君に当たりそうになってしまいました。

危ないので先生に叱られて、その後は部屋の隅でふてくされていました。

最近、お友達への乱暴な行動や、感情の切り替えができない場面が目立ちます。

ご家庭でも、お友達に怪我をさせないように、感情をコントロールする練習や、お約束を守るようにお話し合いをしてください。

保護者の思いを想像しながら改良しましょう。

1. 「事実」と「感情的な表現」を切り離す

- ・**ポイント**：「ふてくされていた」「乱暴な行動」といった表現である、子どもの状態をネガティブに決めつける主観的な言葉は避ける。保護者は責められているように感じ、心を閉ざしてしまう。
- ・**指導のコツ**：「ハサミを置いたあと、壁に背を向けて座っていました」など、**防犯カメラに映るような客観的な事実**を書く。

2. 「困った行動」の背景（理由）と「事業所での対応」を書く

- ・**ポイント**：「ハサミを投げた」という結果だけを書くと、A君がただの乱暴な子に見えてしまうため、なぜそうなったのかの分析と、その時スタッフがどう対応（支援）したのかを書く。
- ・**指導のコツ**：「ハサミが上手く使えず、悔しかったようです」「『手伝って』と言葉で言えるよう、スタッフが〇〇という声をかけました」といった、「理由の代弁」と「事業所のプロとしての関わり」をセットで書く。

3. 「家庭への要求・ダメ出し」ではなく「伴走支援」を心がける

- ・**ポイント**：「家でも練習・話し合いをしてください」は、保護者に大きなプレッシャーを与えてしまう。保護者は「プロでも手こずっているのに、家でどうしろというの…」と反発する可能性がある。
- ・**指導のコツ**：「まずは事業所で『手伝って』と言える練習をしていきますね」「お家での様子もまた教えてください」など、「一緒に考えていきましょう」という**伴走のスタンス**を示す。

4. 1日の中に必ずあった「できたこと・素敵な姿」も添える

- ・**ポイント**：連絡ノートが「問題行動の報告書」になってしまうと、保護者はノートを開くこと自体をしなくなる。
- ・**指導のコツ**：トラブルがあった日こそ、「工作の時間は悔しかったようですが、その後の給食の準備は率先して手伝ってくれました！」など、子どもの良い一面（ストレングス）を必ずセットで伝える。